

# Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科	環境園芸学科		
科目名称	花卉園芸総論						授業形態	講義		
科目コード	710014	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング		
担当教員名	長江 嗣朗								ICT活 用	
授業概要	<p>花卉とは、観賞を目的とした草本茎および木本茎植物のことである。すなわち、花卉は食べることを目的とした植物ではない。しかしながら、それにも関わらず、花卉と人類との関りは非常に長く、深い。 本講義では、ヒトと花の関わりを説き、ヒトは花をどのように利用してきたかを理解する。 また、植物が開花するメカニズムを理解し、人為的な開花コントロールを身に付けることを目指している。</p>									
関連する科目	2年前期『花卉園芸各論』、『園芸生産環境実験実習Ⅰ』、2年後期『園芸生産環境実験実習Ⅱ』									
授業の方法と進め方	板書、パワーポイントを主として用いる。また、随時プリントを配布し、理解度を高める。さらに、必要に応じて実物を持参して示す。									
授業計画【第1回】	第1回：花卉とは何か？ 園芸における花卉とはどのようなものか、また人にとってどのような役割を果たすのか学習する。									
授業計画【第2回】	第2回：ヒトと花卉の関わりについて 世界におけるヒトと花の関わった歴史について学習する。									
授業計画【第3回】	第3回：日本における花卉の歴史1（～江戸時代） 日本において歴史上どのように花卉がどのように発展してきたかを学習する（江戸時代まで）。									
授業計画【第4回】	第4回：日本における花卉の歴史2（明治時代～現代） 日本において花卉が発展してきた歴史を江戸時代から現代まで学習する。									
授業計画【第5回】	第5回：花卉の系統分類と学名 花卉の系統分類について、また花卉の学名について学習する。									
授業計画【第6回】	第6回：花卉の園芸分類とその利用 花卉は人が利用するに当たり合理的に分類されている。その分類方法である園芸分類について学習する。									
授業計画【第7回】	第7回：サクラの種類と観賞の歴史 日本人にとって、重要な花の1つであるサクラの種類を紹介および観賞されてきた歴史を学習する。									
授業計画【第8回】	第8回：サクラの開花生理と開花コントロール サクラの開花メカニズムを紹介し、さらに開花コントロールの方法を学習する。									
授業計画【第9回】	第9回：花卉の花芽分化 植物の花芽が具体的にどのように分化、発達および成熟するのかを学習する。									
授業計画【第10回】	第10回：花芽分化の人為的利用 植物がどのように花芽分化をするか理解した上で、人為的に花を開花させる方法を学習する。									
授業計画【第11回】	第11回：開花生理1（光周性） 花芽分化を誘導する光周性について、メカニズムを学習する。									

授業計画 【第12回】	第12回：開花生理2（低温遭遇） 花芽分化を誘導する低温について、メカニズムを学習する。
授業計画 【第13回】	第13回：鉢物栽培（シクラメン） 代表的な鉢物としてシクラメンを取り上げ、その生理および栽培方法を学習する。
授業計画 【第14回】	第14回：ラン科植物の生理と生態 ラン科植物の生理と生態およびその栽培方法を学習する。
授業計画 【第15回】	第15回：まとめ これまでの14回の学習内容について復習する。
授業の到達目標	花卉が人類と深いかわりがあることを説き、なぜヒトに花卉が必要なかを説明できるようになる。さらに、花卉の開花メカニズムを知ることにより、環境をコントロールして開花を人為的に支配できる能力を身に付ける。【専門分野の知識・理解の獲得】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習 【予習】	当日の授業に関連する分野について、下記の参考書を読んで、ある程度理解しておく。（1時間程度）
授業時間外の学習 【復習】	授業中に登場した花卉について、その生理・生態を調べて、さらなる知識を深めるように努める。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	各試験、レポートは評価後、返却する。また、その解説も実施する。
評価方法・基準	期末に行う筆記試験によって、評価する（80点）。また、授業中に実施する小テスト（20点）についても評価に加える。
テキスト	必要に応じて、適宜プリントを配布する。
参考書	「花卉園芸総論」、「花卉の開花調節」、「花卉園芸学」、「花卉園芸」、「観賞園芸学」
備考	